

UNIRITA

Magazine

vol. 44

ユニリタマガジン

SUCCESS

お客様のヒアリング結果から見る

IT投資動向

ITコンシェルジュの活動から
見えてきたIT戦略とは

第37回 UNIRITA

ユーザシンポジウム開催のお知らせ!

ユニリタ
イメージタレント
朝倉あき



お客様のヒアリング結果から見るIT投資動向

ITコンシェルジュの活動から見てきたIT戦略とは

ユニリタは、お客様にとって良き相談相手となる「ITコンシェルジュ」として、皆様のお役に立てることを目指しています。企業の目標の実現、課題解決にむけて、ユニリタは成熟した自社製品、専門性に特化したグループ会社、100社以上のパートナー企業様、システム管理者の方々が集まる日本最大級のコミュニティなどを最大限に活かしお客様の課題解決のプランニングを支援しています。

グループ総合力 × パートナー協働力 × コミュニティ

＝お客様のお困りごとと解決力!!

1 グループ総合力
グループが持つあらゆる強みやコアテクノロジーの提供を通じ、最新のITを提供します

2 パートナー協働力
100社以上のパートナー企業様と協働し、お客様の課題に対する解決策を提案します

3 コミュニティ
お客様との技術交流・情報交換を通じ、IT活用を促進します
SysAdmin's Group
LINDITH Users Group

このITコンシェルジュの活動の一環として、より深くお客様の悩みを理解するべく、お客様に対し、今後取り組むべきIT戦略の課題や中期経営計画などをヒアリングしています。2019年4月からの半年間で約600件のお声を頂きました。頂いたお客様のお声を分析することで、企業のIT投資動向が見えてきました。

今号ではその結果をお知らせするとともに、ユニリタが提供できるソリューションや事例を紹介します。お客様の課題解決の一助になれば幸いです。

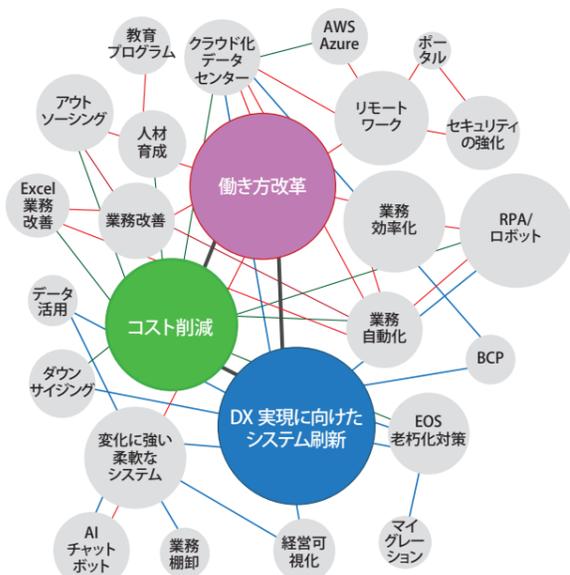
IT コンシェルジュによるIT投資動向のヒアリングと考察

図1はユニリタがお客様からヒアリングした回答をテキストマイニングした結果です。

その結果から「DX実現に向けたシステム刷新(システム再構築)」、「働き方改革」、「コスト削減」という3つの大きな課題が見えてきました。そしてそれぞれに課題解決のための手段が紐づいています。

ここからはそれぞれの課題について考察していきます。

図1: ヒアリングからのテキストマイニング結果



DX実現に向けたシステム刷新

2018年9月に経済産業省が発表した『DX(デジタルトランスフォーメーション)レポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～』には、衝撃的な日本の未来が報告されています。

本レポートでは既存のITシステム(レガシーシステム)が老朽化・肥大化・複雑化・ブラックボックス化しており、この問題を解決できない場合にはDXが実現できないばかりか、2025年以降に日本全体で年間12兆円もの経済損失が生じるおそれがあると指摘しています。

そうした事態を回避するには、2025年までの間に老朽化・肥大化・複雑化・ブラックボックス化したレガシーシステムについて、廃棄・塩漬け(現状維持)にするものを仕分けしながら、必要なシステムを刷新しなければならぬと結論づけています。

実際にヒアリング結果を見ても(図2参照)、「DX実現に向けたシステム刷新」という目的に対して、「変化に強い柔軟なシステム構築」と、既存システムをより安定的に運用するために「EOS」や「老朽化対策」といった手段が挙げられています。これらのキーワードを挙げているお客様に詳しく内容を聞くとその投資の目的は大きく2分されています。

主な投資目的

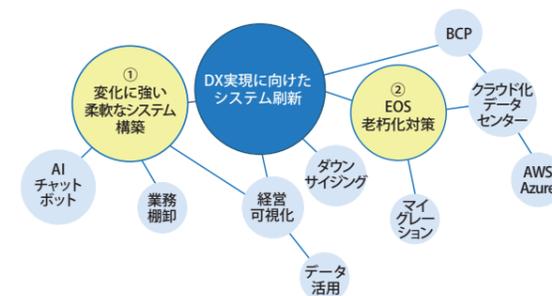
1 変化に強い柔軟なシステム構築
顧客視点で市場の変化に応じてビジネスモデルを柔軟・迅速に変更することで、競争力を高め事業拡大や新たな市場創出のために、新しい技術を取り入れる投資

2 EOS・老朽化対策
レガシーシステムの老朽化・肥大化・複雑化・ブラックボックス化を防止し、安心・安定にシステム運用するための投資

この2つの目的は、それぞれDXの実践に必要とされている、顧客との関係構築を実現するSoE(System of Engagement)、記録と統制を実現するSoR(System of Record)への対応そのものです。そしてSoEとSoRを繋ぎ価値を最大化するSol(System of Insight)への対応についても「経営可視化」や「データ活用」といったキーワードから関心の高さが見てとれます。

各企業がDXに対する取り組みを加速させており、積極的な投資を行う意志が強いことが推察されます。

図2: DX実現に向けたシステム刷新目的と手段の相関図



働き方改革

2019年4月より施行された「働き方改革関連法」は政府の重要政策の1つに位置づけられており、多様な働き方を可能にする社会を目指すものです。日本の人口は2008年をピークに減少に転じています。人口減少に伴う労働力不足を解消するには、働き手を増やし、出生率を上昇させ、労働生産性を向上させる必要があります。これを実施させようとする政策が「働き方改革」です。

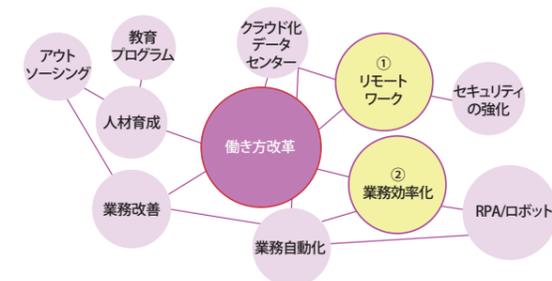
ヒアリング結果をみると(図3参照)、IT部門がけん引する働き方改革の実現には、「制度」や「施策」に関連するものより、「人材」や「業務効率化」、「リモートワーク」といったキーワードが挙がっていますが、各キーワードが複雑に絡み合っており相関関係にあることがわかります。こちらもキーワードの内容を見るとその投資の目的は大きく2分されています。

主な投資目的

1 リモートワーク
リモートワークの整備により、柔軟な労働環境の整備と多様化の実現を推進するための投資
「リモートワーク」に関しては、かなりの企業に取り組んでおり、関連するキーワードとして「クラウド化」や「セキュリティの強化」に投資するという声も挙がっていました。

2 業務効率化
業務の効率化や、業務自動化、アウトソーシングなど、長時間労働の是正を図り、従業員の労働環境を守るための投資
「業務効率化」については、圧倒的に「RPA」の導入とそれに伴う「業務自動化」に投資するという声も挙がっていました。

図3: 働き方改革目的と手段の相関図



コスト削減

企業にとって「コスト削減」はいつの時代でも変わらない永遠のテーマといえます。ヒアリング結果を見ると(図4参照)、「クラウド化/データセンター」と「業務効率化」の2つのキーワードが見えてきます。

「クラウド化」や「データセンター」の利用などにより、レガシーシステムを見直すことで固定費削減を目指すといった声と、「業務効率化」や「業務自動化」を行うことで、業務の品質向上と工数削減、さらには従業員負荷の軽減を目指すという声も聞かれました。

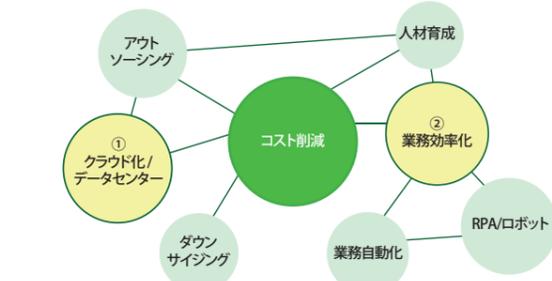
特に印象的だったことは、削減したコストをより戦略的な課題(今回でいうと「DX実現に向けたシステム刷新」と「働き方改革」など)に投資すると判断されている企業が見られたことでした。IT投資を縮小するのではなく、企業の成長や競争力の維持・強化を目的とした、ビジネス成長重視型の投資を積極的におこなっていくという声が多く聞かれました。

主な投資目的

1 クラウド化/データセンター
人件費、光熱費、設備投資費を削減するための投資
「クラウド化」、「データセンター」や「アウトソーシング」へ移行することで、「安全性」と「コスト削減」の両立を図り、戦略的な投資へのシフトを目指すという声も挙がっていました。

2 業務効率化
業務の品質向上と納期短縮を行い、「コスト削減」を実現するための投資
「RPA/ロボット」などを積極的に活用し、「業務自動化」を推進することにより生産性を向上させ、単純労働や定型業務から従業員を解放し、より高度でクリエイティブな業務にシフトさせることで従業員価値の向上を目指すという声も挙がっていました。

図4: コスト削減目的と手段の相関図



次頁から、それぞれのキーワードに対して、ユニリタが提供できる製品やサービスと、実際に効果が高いと評価いただいた最新の事例について紹介します。

DX実現に向けたシステム刷新

- キーワード
- 変化に強い柔軟なシステム構築
 - EOS・老朽化対策

変化に強い柔軟なシステム構築

デジタルサービスマネジメントシステム® (Digital Service Management System®)

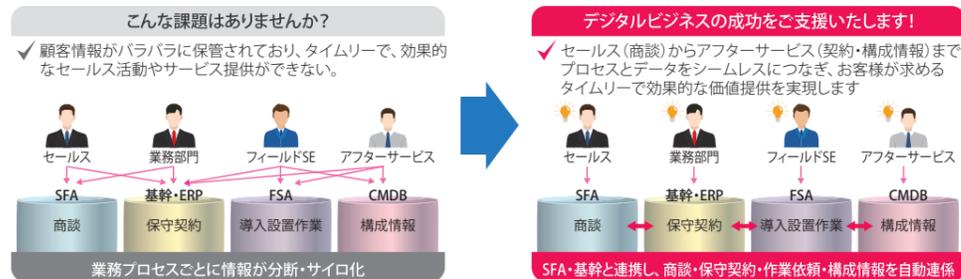


これからの時代、企業が生き残るためには、顧客体験(CX)を重視し、お客様が求める価値に近づけていくことが不可欠です。ユニリタグループにおいて、サービスマネジメント・運用改善などのコンサルティングを事業ドメインとするピーエスピーソリューションズは、サイロ化した顧客情報(セールス(商談)からアフターサービス(契約・構成情報)まで)をシームレスにつなぎ、「業務プロセスの設計」・「システムの刷新」・「人材育成」のすべてにおいて、コンサルティングサービスからソリューション提供までトータルでおお客様のデジタルビジネスの成功を支援します。

事例 製造業A社様

大手製造業A社様では、社会課題を解決する企業へと変革するため、全社横断でのデジタルトランスフォーメーションプロジェクトを立ち上げましたが、関係者も多く、全社規模の調整や実現性に課題がありました。プロジェクトの成功に向けて、本ソリューションをご採

用いただき、全社横断での業務プロセス改革とシステム刷新を進め、セールスからアフターサービスまで組織のすべての活動において、お客様が求める価値を提供できる組織へと変革することができました。



EOS・老朽化対策

基幹系システム再構築

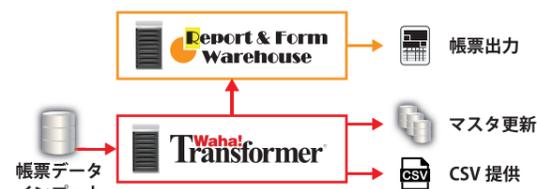
DX実現に向けた取り組みには既存のITシステム(レガシーシステム)の老朽化・肥大化・複雑化・ブラックボックス化を解消し、安定的に稼働する強固な基幹システムの構築が不可欠です。ユニリタでは、豊富な経験と実績ある製品群で、「データ活用」、「データ連携」、「システム運用」、「帳票作成」といったシステム構築の課題から、「クラウド化/クラウド連携」、「セキュリティ強化」、「Web化/モバイル対応」といった既存システムの再活性化まで、お客様のさまざまな課題をスピーディーに解決します。

事例 株式会社安藤・間様

2013年に安藤建設と間組が合併して誕生した株式会社安藤・間様では、合併によりシステム統合や老朽化したメインフレームからオープンシステムへ移行することが必要となりました。そのためにホスト上でスクラッチ開発されていた、各種帳票の作成や必要なデータ収集、システム間のデータ連携、日々の運用業務の効率化が課題として挙がりました。

同社では、基幹系システムに必要な不可欠な「データ活用/帳票作成」「データ連携」「システム運用」の機能を個別に切り出し、機能ごとに最適なパッケージを利用することで、シンプルかつ短納期での実装を実現しました。さらに稼働後のメンテナンスの容易性が高まり、IT要員をシステムの運用維持ではなく、「イノベーションの実現」に業務を振りかえることができました。

データ連携ツールと帳票ツールの活用イメージ



安定性を考慮したアラート通知機能付きの運用イメージ



働き方改革

- キーワード
- 業務効率化
 - リモートワーク

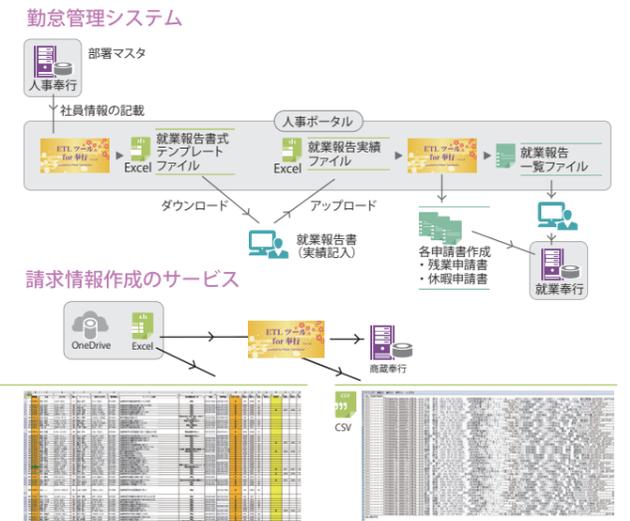
業務効率化

Excel業務効率化ソリューション

Excelは企業で広く使われているツールですが、情報公開速度が遅くビジネススピードに追従できない、多大な集計作業のコスト、マクロ老朽化、担当者の異動などによる引き継ぎでメンテナンスできないものがあるなど、多くの課題を抱えるといった声も聞きます。ユニリタの「Excel業務効率化ソリューション」は、データ連携ツール「Waha! Transformer」を活用してExcel活用の課題を解決し、現場の負担を大幅に削減できます。入出力のインターフェースとしてはExcelを活用しながら、現場の業務効率化を促進することができます!

事例 株式会社クラスイット様

株式会社クラスイット様では、勤怠管理システムとして、社員1人ずつの勤怠データ申請用のExcelを利用して残業時間などの管理を行っていますが、「Waha! Transformer (ETLツール for 奉行)」を活用して、申請用データの就業奉行への取り込みや、残業、休暇、乖離時間などのExcel申請書類の自動生成を行っています。1つの勤怠データを入力すれば、勤怠管理システムへの登録から、申請書の作成まで自動的に行われ、社員は最低限の工数で勤怠の申請を行うことができます。さらには、サービスを提供するためのツールとして利用を拡大しています。病院向けヘルスケア製品提供サービス会社への、クラウドを利用したデータ変換サービス「請求情報作成のサービス」など、さまざまなサービスにも活用されています。



リモートワーク

infoScoop x Digital Workforce



働き方改革の一環としてリモートワークを推進する企業が増えています。IT部門はそのためのIT基盤を整える必要があり、課題は山積みです。例えば、オフィス外からでも利用させたいシステムはクラウド・オンプレミスを問わず多岐にわたりますが、今までと同様の利便性を提供しなければなりません。当然、セキュリティも強化しなければなりません。また、利用者の立場や労働条件に応じて、提供する情報も変えていかなければならないでしょう。「infoScoop x Digital Workforce」は、ポータル・シングルサインオン・ID管理を一気通貫で提供する統合ソリューションで、働き方改革のためのIT基盤としてフロントエンドからバックエンドまでのさまざまな課題をトータルで解決します。



事例 製造業B社様

大手製造業B社様では、利用者が最初にアクセスする窓口をポータルとして統一し、雇用形態・所属組織・労働条件などに合わせて提供する情報を集約かつ自由に選択できるようにしています。また、利便性とセキュリティ強化を両立させるためにシングルサインオンを採用し、一度のログインでクラウドサービスも社内システムもすぐに利用できるようにしています。加えて、利用者の増減に迅速に対応できるよう、連携するすべてのシステムにアカウントや権限が自動的に

反映されるID管理の仕組みを導入しています。これらの仕組みはユニリタがサービスとして提供するため、お客様は運用を意識する必要はなく、「利用する」だけです。これにより利用者は、いつでも・どこでも・どのデバイスからでも・どのシステム/サービスでもオフィス内と同様に利用することが可能となり、リモートワークをスムーズに推進することができました。

コスト削減

- キーワード
- 業務効率化
 - クラウド化 / データセンター

業務効率化

Waha! Transformer



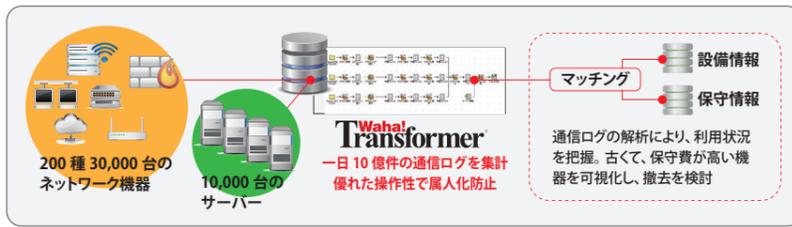
「Waha! Transformer」は、さまざまな環境のデータ抽出・加工・連携をSQLやプログラミングの知識なしで高速に実現できる日本製エンタープライズETL (Extract Transform Load) ツールです。

データウェアハウスの構築をはじめとしたデータ活用から、J-SOX対応、基幹システム再構築、データ集計業務の自動化といったさまざまな用途で利用いただき、多くの企業で業務効率化を実現しています。近年では、デジタル技術を活用し、新たなビジネス価値を創出するDX(デジタルトランスフォーメーション)で要求されるメンテナンス性や接続性に対応。企業のさまざまなデータ加工・連携の課題を構築からメンテナンスまで、シンプルな操作性と強力な加工機能で解決し、ビジネスを成功に導きます。

事例 ソフトバンク株式会社様

通信サービス、インターネット接続サービスの提供、携帯端末の販売などを手掛けているソフトバンク株式会社様では、ERPなどの基幹システムをはじめ、各種業務システムなどを中心に、およそ1万台の物理サーバーと3万台を超えるネットワーク機器が稼働する大規模なインフラを運用しています。その中でネットワークの利用状況を可視化することでセキュリティ監査に課題を持っていました。「Waha! Transformer」の導入によりサーバーやネットワーク機器が出力する1日10億件に上るログの分析を可能にし、セキュリティ監査

に対応するとともに、老朽化した機器の利用状況調査から廃棄に至るまでのライフサイクル管理を構築。作業負担は従来の5分の1程度まで軽減され、コスト的には数億円の投資対効果を実現しました。



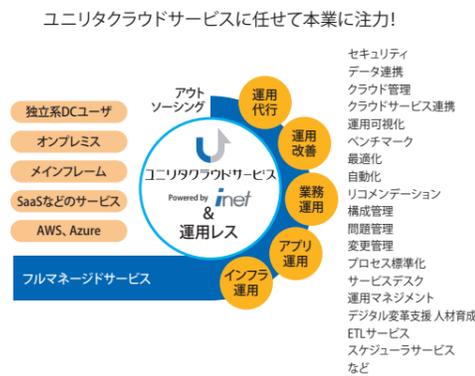
クラウド化/データセンター

ユニタクラウドサービス



ユニタの強みである「システム運用」と「データ活用」領域を活かした「ユニタクラウドサービス」の提供を開始しました。「ユニタクラウドサービス」は、お客様が直面する「人手不足」「後継者不足」「インフラ老朽化」「個人情報の漏洩」、さらに複雑化する課題に対し、ユニタとお客様が協働しながらお客様にあった解決策を導き出すことで、ビジネス貢献を図るものです。

「ユニタクラウドサービス」はユニタ製品・サービスをお客様の価値に見合うユニタ独自のサブスクリプションモデルで提供します。また、日々の運用データからの分析・活用に対しては、今後、ユニタクラウドサービスにレポート作成、ポータル、分析機能のツールを実装してデータの二次活用を実現します。データ分析、活用はお客様からの高い期待をいただいています。



事例 印刷業C社様

C社様では、既存システムのクラウド化を推進されていました。その中で、基幹システムが稼働するハードウェアの老朽化の対策と同時に外部のデータセンターで運用していた管理コスト・運用コストの削減と、運用の役割分担を軽減するために「ユニタクラウドサービス」を採用いただきました。

さらにシステムのクラウド化だけでなく、デスクトップ業務につ

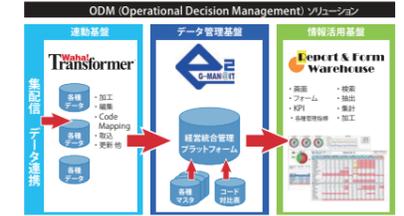
いてもユニタクラウドの「デスクトップ仮想化サービス」を利用いただき、セキュリティ対策だけでなく、勤怠管理やリソース管理を含めた「リモートワーク」の実現を目指しています。このようなさまざまな施策を実施していくために「ユニタクラウドサービス」を活用しています。

パートナー様の「協業モデル」を活用して、さまざまなお客様の課題を解決いたします!

DX実現に向けたシステム刷新

経営統合管理プラットフォーム「GroupMAN@IT e²」 (株式会社インタートレード様)

「GroupMAN@IT e²」は、ありきたりなEUCやBIではなく、お客様のシステム、経営情報、リソースなどを効果的に活用し、ユーザにストレスなくリアルタイムに経営情報を提供することで既存情報・資産を高付加価値化し、スピーディー、かつ最適な経営判断を可能とします。経営者があきらめかけていた理想の経営管理を、「GroupMAN@IT e²」が実現します。



超高速開発ツール「Web Performer」 (キヤノンITソリューションズ株式会社様)

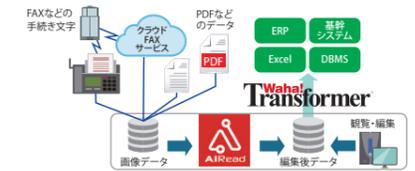
「Web Performer」は、Webシステムのプログラム製造のみならず、システム開発で必須なドキュメントの自動生成や、テストの自動化を可能にします。生成されるプログラムはビューなJavaであり、プログラムを稼働させるための有償ランタイムは必要ありません。「Web Performer」を使えば、「プログラミング工程」が「基本設計情報の登録作業」となり、システム開発工数を大幅に短縮することができます。



働き方改革

人工知能(AI)を活用した文字認識(OCR)ソリューション「AIRead」 (アライズイノベーション株式会社様)

AI×OCR製品「AIRead」(エーアイリード)は、FAXや書類などの文字をAIが読み取りデータ化するソリューションです。印刷文字、手書き文字の読み取りに対応し、読み取り項目の位置ずれやフォーマットの異なる類似の書類であっても、AIにより読み取りを可能としています。AIを活用して支援できるソリューションのご提案を通じ、お客様の働き方改革実現を支援します。



RPA+αで真の業務効率化を実現する「Robochestration」 (CTCシステムマネジメント株式会社様)

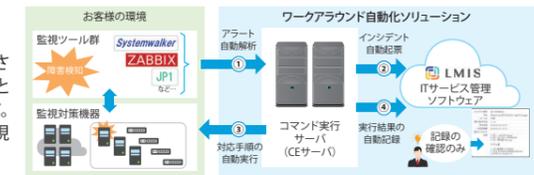
RPAは、さまざまなソフトウェアを操作することが可能ですが、より効果を高めるためにはRPAですべてを自動化するのではなく、専門的な自動化(効率化)ができる+αの製品とRPAを組み合わせる活用することが重要なカギとなります。CTCSでは、RPAだけでなくすべての業務効率化を実現するのではなく、業務の特性や環境に応じて、複数のソフトウェアを組み合わせることで、お客様の業務効率化を実現します。データ処理(Excel操作)や専門的な自動化が得意な複数のソフトウェアをRPAが操作(指揮)することで、多様な業務、環境における自動化が可能になります。



コスト削減

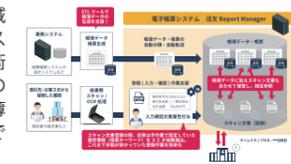
障害対応をNoOps化!「ワークアラウンド自動化ソリューション」 (日本システムウェア株式会社様)

「ワークアラウンド自動化ソリューション」は、システム内で発生した障害に対して、設定された手順による自動対応と対応結果の自動記録を行います。近年、ITサービス管理の手法としてITILの導入が広く浸透してきましたが、ITILの実践には作業負担を伴う側面もあります。こうした中、障害の早期回復・精度の高い対応・対応内容のタイムリーな記録を同時に実現すべく、お客様の障害対応におけるNoOps化を促進させるソリューションを提供します。



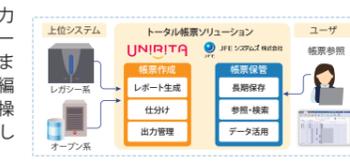
電子帳簿保存法対応支援「活文ReportManager」 (株式会社日立ソリューションズ様)

電子帳簿保存法適用で、コスト削減だけでなく内部統制・コンプライアンスの強化につながります。また、AI技術により、電子帳簿保存法に係る業務の効率化を実現し、スキャン文書と帳簿データを紐づけて一元管理することで運用コストを軽減します。



電子帳票システム「FiBridgeシリーズ」 (JFEシステムズ株式会社様)

さまざまなシステムから出力される多種多様な帳票をイメージそのままに表示、管理できます。大量帳票の閲覧・検索・編集・データ抽出など、軽快な操作性により事務作業を効率化します。



第37回 UNIRITAユーザシンポジウム 開催のお知らせ!

UNIRITAユーザ会は、ITに携わるさまざまな業種のメンバが集まる人脈形成や若手育成の場であり、技術力向上をテーマに1年を通じた研究会活動を行っています。

今年度も5月から年間の研究活動を行い、その活動の総決算として、UNIRITAユーザシンポジウムを3月に福岡にて開催します。



今回も研究グループの成果発表をはじめ、パネルディスカッション、ユーザ様の生の声による事例発表、講演会やマネジメント層向けセッションを予定しています。

また、会場には例年ご好評をいただいておりますパートナー様による最新のITソリューションをご紹介するブース展示やショートセッションなど、皆さま楽しんでいただける企画をご用意しております。ぜひご参加ください。

開催期間

2020年3月5日(木)～7日(土) 2泊3日
3月5日(木) 13:00 (受付開始11:00)

会場

ヒルトン福岡シーホーク
〒810-8650 福岡県福岡市中央区地行浜2-2-3

参加費

ユーザ会会員 54,000円(税込) /1名
ユーザ会非会員 76,000円(税込) /1名

お申し込み

11月上旬よりUNIRITAユーザ会
ホームページにて受付開始となります
<https://www.uniritauser.jp/>

定員60名
お申し込みは
お早めに!

※参加費の詳細につきましてはUNIRITAユーザ会ホームページをご覧ください。

アーリーバード 実施中

2020年1月31日(金)までにお申し込みいただくと早期申し込み割引が適応され、以下の金額になります。

お早めに申し込みをご検討ください。

ユーザ会会員 48,000円(税込) /1名
ユーザ会非会員 70,000円(税込) /1名

UNIRITAユーザ会とは?

UNIRITAユーザ会は、単なる異業種交流会と違い、若手の育成にも取り組んでいます。現在、会員企業は全国に250社あり、東日本、中部、西日本、九州の4地区でそれぞれ研究部会を立ち上げ、研究活動を行っています。

参加者も若手が中心で女性参加者も増えています。

研究部会は1チーム5人以上で編成し、1年間のテーマを決め研究を行い、毎年3月のUNIRITAユーザシンポジウムで1年間の集大成として、研究成果を発表します。参加メンバーは研究発表を通じ、1年間の成果と自身の成長を上司にアピールし、上司の方は部下の成長をその目で確認できる貴重な場でもあります。